

# 「世界に仏法光明を」

## ——留学僧育英会の総会開く——

平成六年に創立十周年を迎えた横浜善光寺留学僧育英会の第九回総会が十一月二十七日午後二時から善光寺で開催された。席上、来年の第十一回育英生の辞令交付式を二月十日に執り行うことが発表された。出席した育英生たちは、育英会の名に恥じないよう学問と仏道に精進努力することをそれぞれに誓い合つた。

総会に先立ち黒田理事長の導師により本堂で本尊上供が営まれた。法要後、佐藤俊明常務理事（千葉県柏市・龍光寺住職）が挨拶し、「第一

回総会の時、育英生はたつた一人だった。今日こうして大勢の皆さまのご出席をいただくのを見て、今昔の感に堪えない」と述べた。また三月に挙行した創立十周年記念式典を振り返り、黒田理事長が権大教師に補任されたこと、韓国・通度寺の老天月下方丈を式典に迎えたこと、来日への答礼と老天方丈の曹溪宗宗生（管長）就任祝いのため訪韓したこと、これまでに育英生の総数が五十七人になつたことなどを報告した。

東隆眞理事（駒沢女子大学副学長）は「本会は宗門の内外を問わず、多くの方々のご理解とご協力により順調に歩んできた。この十年間、何の問題もトラブルもない」と挨拶。「本会は黒田理事長の修行時代の思いに端を発してゐる。きのう今日できたものではない」と述べ、さらに次のように激励の言葉を贈つた。

「育英生の皆さまは、それぞれのお立場で、明日の仏教界を担う人材として、世界平和を実

現する人類の一員としてご活躍いただかなければならぬ。貴乃花関は横綱就任の際、不撓不屈、不惜生命と言つた。この言葉は黒田理事長の信念でもある。

育英生の皆さまは、黒田理事長のようになな誓願を抱いて頑張つていただきたい。数年のうちに育英生は百人を超えると思う。世界各地に同じ思いを抱く人が育つことになる。これは大きな力となるであろう」

## 育英生が決意と抱負を発表

総会では黒田理事長が感謝御礼の言葉を述べた後、富永豊重総代が「育英生の皆さんのが早く

立派になつて私たちに法施を下さるようになつていただきたいと願つてゐる」と挨拶。桐元大智事務局長が育英会の平成六年度行事を報告。

出席した育英生十三人が自己紹介を兼ねて自らの決意と抱負を発表した。

協議決定事項は、まず第十一回育英生の発表は来年一月十日、その辞令交付式を二月十日に執り行い、記念講演は財団法人松ヶ岡文庫長の

古田紹欽博士を予定。併せて善光寺開山白純大和尚の十七回忌法要を、導師に大本山永平寺の南澤道人監院を拝請して當む。また来年二月に機関誌『成寿』第二十四号を「永平寺特集」号として発行。育英生の論文集（第一集）を九月に発行するなど。

この後、第九回育英生の東京大学大学院生・李鐘徹さん（韓国）と第五回育英生の臨濟宗妙心寺派退耕院副住職・山本淨月さん（尼僧）の二人が、それぞれ育英留学の思い出と現在進めている研究内容や自らの決意などを発表。黒田理事長は「国境を超える、大乗小乗を超えていかねばとの決意を聞いた。仏法の光明を世界中とともにすなら、大きな力になっていく」と感想を述べた。

閉会の言葉を述べた寺田伊佐武総代は「きつい・汚い・苦しいを3Kというが、私はこれを感激・感動・感謝と読み換えている。世のため

人のために尽くすことがこの世に生まれた甲斐である。クラーク博士はたつた一年で多くの人を育てたが、黒田理事長は日本のクラーク博士といつても過言ではない。皆さんは井戸を掘った黒田理事長のことを忘れてはいけない」と話し、最後に黒田理事長は「花を育てるのは一年、木を育てるのは十年、人を育てるのは百年といふつもりで頑張っていく」と決意を込めて結んだ。

